

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会  
第 22 回 外的事象 PRA 分科会 議事録

日 時： 2021 年 5 月 7 日(金) 10:00~12:00

場 所： WebEx 会議

配布資料

RK6SC 22-1 第 20 回外的事象 PRA 分科会議事録(案)  
RK6SC 22-2-1 人事について  
RK6SC 22-2-2 外的事象 PRA 委員名簿 2021/5/7 版  
RK6SC 22-3 断層変位 PRA 標準:202X 転載許諾手続きの状況等を踏まえた「制定の承認(第 83 回標準委員会:2021 年 3 月 3 日)」版からの変更点について

議題：

1. 定足数確認, 資料確認
2. 前回議事録の確認
3. 人事関連
4. 断層変位 PRA 標準 転載許諾手続きの状況等を踏まえた「制定の承認(第 83 回標準委員会:2021 年 3 月 3 日)」版からの変更点について
5. 「外部ハザードのリスク評価方法選定標準」の改定作業について
6. その他、次回日程

出席委員(14 名)： 糸井主査(東大)、桐本幹事(電中研)、安達委員(テプシス)、井上委員(東芝 ES)、織田委員(日立 GE)、小林委員候補(中部電)、佐々木委員(関電)、砂川委員(北海道電) 西田委員(JAEA)、泥谷委員(NEL)、美原委員(鹿島)、山野委員(JAEA)、吉田委員(大林組)、綿引委員(東電 HD)

欠席委員(5 名)： 内山委員(大成建設)、栗田委員(東電設計)、田中委員(MHI)、中島委員(電中研)、橋本委員(電中研)

出席常時参加者(2 名)： 細川(関電)、根岸(原電エンジニアリング)、

欠席常時参加者(2 名)： 倉本(NEL)、高橋(鹿島)

説明者(2 名)： 酒井(電中研:断層変位 PRA 作業会)、河村(東芝 ESS)

(解除) 常時参加者(1 名)： 成宮(JANSI)

## 議事内容

### (1) 定足数の確認

会議に先立ち、委員 19 名中 14 名が出席しており、定足数を満たしていることが確認された。また、資料確認が行われた。

## (2) 前回議事録の確認

桐本幹事から、前回議事録の内容について説明がなされ、承認された。

佐々木委員より、地震 PRA 作業会から地震 PRA 標準改定については 5 月に中間報告という予定であったが、今回は間に合わないこととなっていることが説明された。

## (3) 人事について

成宮常時参加者の登録解除が報告され、最新の委員名簿の報告が行われた。また地震 PRA 作業会、断層変位 PRA 作業会の人事が報告された。

## (4) 断層変位 PRA 標準 転載許諾手続きの状況等を踏まえた「制定の承認(第 83 回標準委員会:2021 年 3 月 3 日)」版からの変更点について

酒井氏(断層変位 PRA 作業会幹事)より、断層変位 PRA 標準における制定承認版からの変更についての説明が行われた。許諾の回答がない図を削除するものと、IAEA で今後発行予定の TECDOC と共通する図が用いられているが、発行のタイミングが近い物となり取り扱いが難しくなったため、図に日本語などの修正を加えて対応するというものである。

分科会では、編集上の修正であるとして承認し、リスク専門部会に報告することとした。以下の議論があった。

・(図 J.1-J.6(附属書 J)及び表 L.1(附属書 L))の図について、表の記載で分割した箇所が箇条書きを羅列しているような記載であるので、標準作成の手引に従うと「以下の通りである」として文章がつながる箇条書きにすべきではないか。

→ 三役の協議で文章がつながる記載への修正を行う。

・表は別段内容が変わっているわけではないが、標準委員会で転載許諾の了解は可能となるか？

→ 許諾に不明な点がある場合は先方に確認するというのが通常のルール。ただし、現時点では IAEA が発行する時期も不明であるため、原子力学会から許諾を問い合わせる状況にない。なので、表の形式を変えて文意の変更となることも本意ではないので、まずこれで進めるということとしている。

・添付 3 は付けなくてもよいのではないか。

→ 前回以降の説明ということで付けていた。特に陽には説明は必要ないと考える。

## (5) 「外部ハザードのリスク評価方法選定標準」の改定作業について

桐本幹事より外部ハザードのリスク評価方法選定基準及び手引きの改定について議論を開始するために、前回の標準の検討時の資料の状況についての議論が行われた。

・委員本人ではないが、当時に関わっており、リスク専門部会で説明をした関係者がいるため、確認をして情報提供を後日することとする。

・手法の技術レポートと同時に改定するという方針になるか？

→ 記載からみて、ハザードの分類はIAEAのNSR-3やSSG3等の記載の改定状況をみて整合を取るのかなと思う。いずれにしろ、標準をまず改定してということかもしれないが、内容としては両方改定する予定で進めるべきなのかなと考える。

・IAEAの改定状況はあるのかというと、いまはコンビーネーションハザードが議論されていて、ここは改定されていないのではないか。

・そうであればコンビーネーションハザードについて書き加える必要があるということか。

・NSR-3はSSR-1にアップデートされているので、記載としては変わっていることについて確認が必要ではないか。

・用語としても「決定論的CDF評価」についてはFが必要ないのではとか、外部/内部ハザードの分類、外的事象でハザードを束ねる言い方をしていることが米国では単にハザードと呼んでいるなど、そのような議論点はあるかもしれない。

・事務局から元になるWordファイルを入手して、見直しの分担をすることを考えるかもしれないが、確認するポイントなどを整理しておきたいと考える。

・各委員からは取り込むべき国際的な文献や知見などのご指摘をしていただきたい。

## (6) その他、次回日程

次回は地震PRA作業会が7/25に予定されているため、その後として7/27の10:00-で調整することとした。

以上